

# はっする



福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター

## ○台風23号について

10月20日の23号台風の際には、医療機関、消防、市町村の皆様、その他関係機関のみなさま大変お疲れ様でした。

県が行ったこと  
災害対策本部を立ち上げ  
医師会の協力を依頼  
各市町村の被害状況の確認  
救護所の健康被害者の確認  
家屋等の消毒の支援  
県出先機関からの情報の取りまとめ  
を行いました。

関係者の方々、特に小浜市医師会、大飯郡医師会には快く協力の了解をしていただきまして、まことにありがとうございました。 若狭保健所長



## ○感染症トピックス

### 急性脳症（スギヒラタケ？）



#### 1 県内での事例

平成16年10月29日（金）に丹南健康福祉センター管内の医療機関から同センターに対し、秋田県等で確認されているスギヒラタケとの関連が疑われる急性脳症患者と同様の事例について情報提供があった。

#### 2 患者の状況

- (1) 患者 70歳代女性 (2) 発症日 平成16年10月上旬  
(3) 入院日 10月上旬  
(4) 経過 ぶらつき、口のもつれで入院し、その後けいれん等の症状後、10月中旬死亡

#### 3 調査結果

患者は、腎透析で通院し、また、9月下旬および10月上旬の2回スギヒラタケを食べていた。

### スギヒラタケについて

スギヒラタケの呼び名は？

スギカノカ、スギカヌカ、スギモダシ、スギミミ、スギナバ、スギモタセ、スギワカイ  
きのこについての問い合わせ先

福井県総合グリーンセンター林業試験部 0776-67-0002  
若狭森林組合 きのことアドバイザー 池上氏 0770-56-5600

#### 原因

現在調査中であり、腎機能が低下した人はもちろん腎機能に異常がない者も  
安全が確認されるまでは食べることを避けること。

スーパーで販売されているか？

天然に発生しているものが採取されており、生産量は他のキノコに比べ少なく、自家消費がほとんどであり、一部に産地の直売所で販売されているものがある程度。スーパー等の量販店で販売されることは、極めて稀である。

#### 生産量、産地

|               |            |            |
|---------------|------------|------------|
| 1. 2トン（平成15年） | 主な生産地（採取地） | 新潟県、秋田県    |
| ちなみに          | 生しいたけ      | 65, 363トン  |
|               | えのきたけ      | 110, 185トン |
|               | まいたけ       | 45, 805トン  |
|               | まつたけ（採取量）  | 80トン       |
|               |            | 生産される。     |

## 急性脳症(5類感染症)の届出について

急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)

定義

ウイルスなど種々の病原体の感染による脳実質の感染症である。ただし、病原体が特定され、他の届出基準に含まれるものを除く。炎症所見が明らかではないが同様の症状を呈する脳症もここには含まれる。

《届出基準》・・・7日以内に届出

意識障害を伴って24時間以上入院した者、あるいは24時間未満に死亡した者で、かつ、以下の一つまたはそれ以上の症状を有するもの

- ・38度以上の発熱
- ・何らかの中中枢神経症状
- ・先行感染症状

熱性けいれん、代謝疾患、脳血管性疾患、脳腫瘍、外傷など、明らかに感染性とは異なるものは除外する。

可能な限り病原体診断を行い、明らかになったものは病原体名、検体の種類及び検査方法を記載する。なお、上記基準に該当する脳症も含める。

五類感染症の届出様式が必要な方はPDFファイルを送りますのでメールにてご連絡ください。

## 鳥インフルエンザ

環境省、鳥インフルエンザ対策で渡り鳥調査

環境省は11月10日、渡り鳥が鳥インフルエンザウイルスを運ぶ可能性があるとして、渡り鳥の生息状況とウイルスの保有状況について、11月下旬から12月上旬にかけての期間と、3月の計2回、調査を実施すると発表した。ツグミ、シロハラ、カシラダカといった冬に日本に渡る陸鳥をかすみ網で捕獲。体液を採取した後、標識を着けて放し、国内のどこにも移動するかも確認する。



今年1月からの鳥インフルエンザ騒動で、同省は、発生地周辺の野鳥調査やカラス・ドバト全国調査を行ったが、高病原性の鳥インフルエンザウイルスは発見されていない。(日本 11/10 共同)

## インフルエンザ

**管内すべての医療機関にワクチンの在庫状況調査に協力していただきました！！**

昨シーズンはインフルエンザワクチンの在庫不足などがあったため、今シーズン県はインフルエンザワクチンの在庫状況調査を行い供給不足の対応を行うことになりました。

調査実施にあたり医療機関への依頼を行ったところ、管内全ての医療機関からご協力(福井県全体では約9割の協力)していただけることになりました。まことにありがとうございます。

現在管内の予防接種実施機関のワクチン在庫には余裕がありますが、接種を希望する場合には実施可能か直接医療機関へ問い合わせることが必要です。

**インフルエンザ速報 大阪府にて今シーズン初のインフルエンザ学級閉鎖**

大阪府の小学校にて10月下旬、1校で22人の患者が発生し、1クラスが学級閉鎖になりました。大阪府では9月下旬からインフルエンザ患者が散発的に発生し、いずれもA香港型(H3N2)ウイルスが検出されています。このため、大阪府立公衆衛生研究所などでは例年になく流行パターンだとして警戒を強めています。

**福井県感染症発生動向調査速報(11月上旬)**

全数報告の感染症・・・1類～5類まで 県内での報告はありませんでした。

小児科定点報告・・・11月1週目より今シーズン初のインフルエンザの報告が福井健康福祉センター管内であった。(2週目に4名)

現在まで福井管内以外のインフルエンザ発生報告はありません。

## ～ ディベ - トを通してがん検診を考える～

元気百歳プロジェクト等「健康長寿福井」の推進の一環として、若狭健康福祉センター主催で11月15日(月)に市町村がん検診評価事業研修会が開催された。

**市町村がん検診について有用性の評価を行った！！**

**ディベ - ト大会**... テ - マ「がん検診事業は廃止してもよい」 **否定側が勝利！！**

がん検診に対して、具体的な証拠・根拠をもとに肯定、否定の両面から活発な討論がされた。肯定側からは、「精度管理に問題がある」、「住民の健康を守る立場からは予防に力を入れるほうが効率的である」と強調した。これに対し否定側から、廃止によりがんの発見が遅れ「医療費が増大する」、「治療・入院などによりQOLが低下する」ため早期発見・早期治療を目的に事業として意義があることを強調した。

こうした意見を踏まえて行われた管内市町村担当課長補佐および若狭健康福祉センター管理職による採決では、肯定側支持者が3票、否定側支持者が6票と、がん検診事業の廃止はだめという支持者が多数を占めた。

**講演**... 「がん検診の有効性」 講師 福井県民健康センター所長 松田一夫 氏

講師の松田県民健康センター所長からは、がん検診のメリットとして「がんによる死亡率が減る」、「QOLの向上」、デメリットとして「偽陰性(見逃し)や偽陽性(余計な不安と検査)」などいくつかあげられた。科学的根拠に基づくがん検診の有効性と欧米との住民受診行動の違いが述べられ、目的は「がん死亡者を減らす」ことであり、組織化された検診事業推進の必要性が示された。

**意見交換**... 全市町村が「がん検診事業は廃止してはだめ」と事業推進派となる！！

ディベ - ト大会と講演を踏まえ市町村としての最終判断を意見として求めた。市町村からは、「がん検診は集団検診ならではの良さがあり、自分の健康を守るというきっかけづくりとしても有効であり、住民が検診を受けるのが当たり前という意識啓発をしたい。」、「現状として中途半端なやり方であり、今回の研修でがんの死亡率を下げるまでいかなないと意味がないことが理解できた。」、「検診が万能でないことの説明責任があることを感じた。」などの意見が多数を占めた。最終的に全市町村が、集団レベルでがんの罹患率と死亡率を減らすために、個人まかせでなく組織化された検診事業を推進していく意気込みを語った。

**全市町村ががん検診事業を推進する結果となった。**

### 編集後記

今回から「はっする」を送信することとなりました。発信するにあたり、多数の返信をいただきありがとうございます。なお、これからもこの情報誌をよりよいものにしていきたいのでご意見等ありましたら、ご連絡くださるようご協力お願いいたします。

今回の情報はご返答をいただいていない機関にも送信しています。希望しない方はお手数ですがその旨をセンターまでご連絡下さい。

発信者 若狭健康福祉センター 健康増進課 担当 嶋田 泰大

Tel 0770-52-1300 Mail [y-shimada-bm@ain.pref.fukui.jp](mailto:y-shimada-bm@ain.pref.fukui.jp)